

わが社の

企業価値

北海道ガス

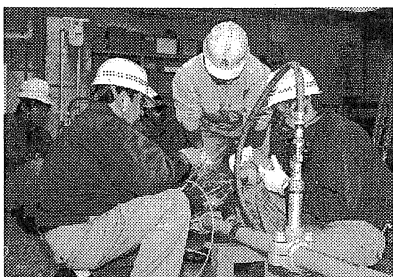
で電気と熱を同時に作り出す「天然ガス・コージェネレーションシステム」などの省エネルギーシステム

北海道ガスは、札幌、小樽、函館、千歳、北見の各市に拠点を構える都市ガス事業者。明治44年に設立した同社は、平成23年に創立100周年を迎える。

天然ガスは、他の化石燃料に比べCO₂排出量が少ない環境にやさしいエネルギーとして期待が大きい。同社では北海道における天然ガスの普及拡大に積極的に取り組んでおり、平成18年までに道央圏（札幌、千歳、小樽）と函館の都市ガス原料を、石油系原料から天然ガスへ切り替えた。その後引き続き、他の道内ガス事業者の天然ガス導入にあたり、人員派遣や技術支援を行うなど、北海道の天然ガス普及における中核的な存在だ。

また、天然ガスの有効利用技術の普及拡大にも努めている。業務用分野では、一つのエネルギー

ガス漏えい処理の基本作業や手順などを習得する保安教育



テムの普及に加え、工業用の需要が大きな伸びを見せている。一方、家庭用分野では、これまで北海道の暖房・給湯エネルギーは灯油が一般的だったが、ここ数年、「家庭用ガス・コージェネレーションシステム」や「省エネルギーガスセントラルシステム」などが、そのシェアを

同社では、昨年1月に発生した、北見市でのガス漏れ事故を受け、「安全高度化計画」を策定し、事故再発防止に向け、全社をあげて取り組んでいる。中期経営計画の中で

『安全の高度化』推進

確実に伸ばしており、市場における天然ガスの評価は非常に高い。

今年4月には、2020年までを見据え、今後5年間で取り組むべき課題を明確にした「中期経営計画」プロジェクト2020を策定。「安全高度化の着実な推進」「長期的な視点に立った天然ガス供給基盤の確立」「地域深耕営業の強化」「グループ構造改革の推進」の四つを経営の重点課題と位置付けた。

込まれる天然ガスの需要拡大への対応、供給源の多様化によるセキュリティ向上など、将来にわたる天然ガスを安定して供給できるように、札幌市の北隣に位置する石狩市に大規模LNG（液化天然ガス）基地の建設を計画し、2013年の稼働に向け準備を進めているところだ。また、技術開発においては、環境問題の切り札ともいわれている家庭用燃料電池の商品化に向け、メーカーと共同で研究開発を進めている。積雪寒冷地における導入効果の検証や課題解決を進め、早期の市場導入を目指している。

今年4月に就任した大槻社長はこれまで営業畑が長く、「情熱と誠意が人を動かす」がモットー。自らの熱い思いを直接社員に伝え、社員の熱い思いを受け止める。現場と経営の距離をさらに縮め、会社の将来像を共有することで、課題解決に向かっている構えだ。

▽本社 札幌市中央区大通西7丁目3番地1
▽代表者 大槻博・代表取締役社長
▽従業員数 88人
▽URL <http://www.hokkaido-gas.co.jp/>